

五、合馬神楽の伝承を守る

文責 山本公一

今より二百数十年前、享保十七、八年の大飢饉の時、餓死者続出し加えて悪性流行病が蔓延し、村人は喰うに食物なく病者に薬なく、一日と文字通りの餓鬼地獄に落ち村は全く全滅の惨状となったのである。この時、誰というとなく、誰語り合うともなく、村の老若男女は鎮守の神天疫神社に立ち籠り、かがり火を焚きあかし、昼夜の別なく祈願を籠めたのである。村人の願は神に通じてか、年明けて病氣は退散し、村人は仕事に精を出し、黄金の波に漂うみのりの秋を迎え、踊り舞うて喜んだこの事である。

この時村人は村が三軒になっても御神楽を奉納致しますと祈り、折って祈願の成就には、毎年九月十五日に必ず村の元氣な若者達が、奉納し続けて来たこれが合馬神楽である。その後明治三十五年出雲神楽講より免許を受けておるのである。大正十三年勤儉貯蓄の主旨に則り衣裳全部を売り払って中止する事となった。(これから神楽の代り他の行事は必ず九月十五日に行ってきた)。

昭和九年夏の大早魃の際、昔餓死した飢饉の時天疫神社に祈願をなし、神楽を奉納した事を追憶して、翌昭和十年に衣裳を新調なし、若者達に神楽の舞方を教えるなど、村を上げて賑々しく再起することとなった。(昭和九年天疫神社改築)然し昔しながらの神楽は極めて簡素

な舞であり、余り面白味もなかったもので、この頃から色々舞の研修(舞方、楽の打方、神前の礼儀、作法など)をなし、今では十数人の舞手、三十余舞の神楽となり郷土民芸の一つでもある。又ラジオで放送される事もあり、去る十五日の奉納楽はテレビニュースにまで放映される有様でした。

本日はその一舞(身さき)であります、皆様の御観覧に供し得ますことを何より無上の光栄と存じます。

今日の舞、みさきの舞、つるぎの舞、この舞は神代時代天孫降臨の際、にぎの尊の前を立ち塞ぎ邪魔をするものがあるので、尊はこれを討ち退散させんとして問答して見れば、これは天孫降臨をお待ちして道の御案内役を申上げる「みさき」の神猿田彦大神であった。尊は大変御喜になり、この神の所望により「こうしん」と名付け、道案内の神として現在まで道の至る所に祭神されてあります。此の時の有様を舞う舞であります。

官主 くにぎの尊 永津 崇

鬼 猿田彦大神 永津 薫

三本剣(つるぎの舞) 小緑 忠良 合馬神楽講

この合馬神楽の由来についての文章は、先日平成十年十一月二十一日合馬の教育を語る会の時、合馬小学校長吉永正美先生より戴いたものである。次の文章は合馬神楽の伝承を小学生によって取り組んでいるので、この為、その解説に使っているものである。

1. 子どもによる合馬神楽の伝承について

私たちがこれから披露する、合馬神楽は二百数十年の歴史と伝統を持ち、北九州市の無形民俗文化財に指定されています。この、合馬神楽は毎年九月十五日、合馬の天疫神社、秋の祭礼に奉納される神楽です。十八世紀の初めの享保年間、村にききんや悪疫が続いて村人や牛馬に被害が出たため、村人がよそから神楽を招いて天疫神社に奉納し、平癒祈願をしたのが始まりと言われています。現在、演目は十六番ありますが、今日は「奉幣の舞」「たずさの舞」「御福の舞」「四ツ鬼の舞」を披露します。

奉幣の舞 神楽を舞う場所を清めるために最初に舞う舞です。

たずさの舞 村が栄えるようにと願って「ささ」を持って舞います。

御福の舞 春夏秋冬の季節が無事にやってくるように東西南北の神様をお願いする舞です。

四ツ鬼の舞 天照大御神が天の岩戸にかくれ、この世が真っ暗やみになった時、あばれまわった四人の鬼を表しています。

神楽伝承の取り組みは、今年で七年目になります。今年、五、六年全員二十名がお囃しと舞に別れ、合馬神楽保存会の方々に教えを戴きながら練習してきました。では練習の成果をごらん下さい。

合馬神楽の保存については前述の通りであるが、舞の種類について、昭和四十年に小倉郷土会により発行された「西谷」により左記に紹介する。

2. 舞の種類

① 米撒き(一人)

鳥帽子、緋の舞衣、白袴

② 手舛(二人)

一人は鳥帽子、緋の舞衣、白袴、笹を持つ

一人は鳥帽子、深緑の舞衣、白袴、左手に扇、右手に鈴を持つ。

集神中で器用な二神が、あたりの草花を手折りて供へ

草花を手玉に面白く舞い神を慰める為

③ 奉幣の舞(一人) 御幣帛を奉る舞である。

鳥帽子、白の下垂、白袴

左手に大幣を持ち、右手に鈴を持つ

④ 御福(四人)

立鳥帽子持衣束、背南、赤西、白北、黒。

左手に扇右手に鈴を持つ

四人の舞方四角に立ちみふくの歌を斉唱しながら舞う。

東では久々能智神、南では火具土神、西では金山比古神

北では水波能売神、中央では埴安比古神を拝して、春、

夏、秋、冬、四節、四土用の加護を祈る。

⑤ 五行(六人)

東西南北の神、上は陣羽織、下はたつき、剣を持つ
土神は猿田彦の面、左手に鈴（火の玉）右手に赤地に
黒の火の丸の扇、金欄の上衣、金欄の袴、勅使、烏帽子
緑の下垂、白袴、左手に大幣、右手に鈴、木、火、金、
土、水の神と御神勅使が現れる。是は各神其領域を争い
季節を乱したので御使足長槌尊が天降りまして、各神を
押へ、春、夏、秋、冬の由来を説き、本分を教えて五行
の守護を命じ給う意の出たものである。

⑥ たすき（一人） 空盆を二枚持って舞う。
緑の舞衣、白袴袴をかける。

豊作の喜びを祈り、田鋤を櫛に掛け、耕作を意味する
舞である。

⑦ 折敷（一名）

緋の舞衣、白袴、盆神楽とも云い芸神楽
米を盛った盆二枚を持ち、米をこぼさぬ様に舞う、実
りの秋を迎へて、収穫の喜びと感謝の舞。

⑧ 三本剣（一人）

頭の毛の冠、上は白の上衣に袖無しを着る。下はた
つき。櫛をかける。
剣を三本持って舞う。芸神楽である。

⑨ 四ツ鬼（四人）

東へ青、南へ赤、西へ白、北へ黒の天狗の面をつけ
る手にしかん杖。
天孫降臨の露払いで、悪魔を除く舞。

天孫降臨の露払いで、悪魔を除く舞。

天鈿女命神ながら心猛き神にて臆する色なく足拍子高く
舞う。諸神どつと笑う。天照大神いぶかしく思い、石屋
戸を細目に開ける処、天兒屋根命、鏡を差出し大神の姿
を映す。大神いよいよあやしく思い少し戸を乗り出した
処を隠れて居る手力男命、懸命に岩戸を開き引き出せば
高ヶ原も、葦原の中津国自から照り輝いたと云う古事記
の伝承に依り舞うものである。

この他、合本第二巻で紹介した。湯立神楽もある。

請員十一名で、囃方三名、湯鎮役、火鎮役、神主、湯持、
鬼、細番三名。

服装 囃方 烏帽子、白の下垂、白袴

神主 上は下垂、袴は下をくくる

鬼 面、上は袖無、下たつき

湯鎮、火鎮役、白衣白袴（下をくくる）
（細部省略）（平成十一年四月号 掲載）



⑩ 真砂（四人）

各々青赤白黒の舞衣、白袴、烏帽子。切花の袋を持つ。
花神楽とも云う。舞方四人、歌を斉唱しつつ或は二人
づつ組んで舞う。一同心和らぎ神に加護を祈る意義を持
つ。扇と共に左手に持った包から、紙の切花を右手につ
まみ撒く、優雅にして美しい舞である。

⑪ 罫鬼（御先驅鬼）（二人）

猿田彦の面、金欄の下垂と、袴。

しかん杖を持つ。神、茶褐の下垂。白袴。幣を持つ
猿田彦、天孫降臨と聞き、御出迎する。然るに神達、
天孫の敵と思い其の間に争が起る。猿田彦、神に説き伏
せられ、御先驅を承わる。甲申の舞とも云う。

⑫ 天兒屋根命

烏帽子白の下垂、白袴。翁の面。左に大幣右に扇
天鈿女命

頭に瓔珞、紫の下垂、緋の袴。

⑬ 手力男命

笹に色紙を飾った手草と舞扇を持つ。
鬼の口を結んだ面。金欄の上下。左に天幣右に扇

⑭ 須佐之男命

天照大神憤り天石屋戸を立てて内に籠る。葦原の国総
て闇となり災い一時に起る。智者天兒屋根命の謀いで事
の吉凶を占せ幣帛を捧げ準備を終て高らかに祝福を称る



神楽を伝承する 合馬の子供

一号 (二四八号)

②道原栄 (三)

一、栄の構成

二、栄の吹奏演奏

一三、楽庭

一四、器具、衣裳類

二号 (二四九号)

②道原栄 (四)

一四、前号つづき

一五、大旗

一六、明治四一年、復活の苦心

復活の苦心

三号 (二五〇号)

創刊二百五十号に寄せて

②道原栄 (五)

一七、道原栄保存会

一八、学童による

栄の演奏

あとがき

参考資料

I、道原栄保存会 則

II、道原栄物品一覧表

小柳先生の追悼文

お断り

一、「東谷の歴史を聞く」

北九大教授ら農民から

二、「両谷で郷土の歴史を語る」

小柳先生追悼文

六月号 (二五二号)

中谷高等小学校 (一)

はじめに 名称

開設期間 修業年限

設立 校舎

生徒関係 服装

入学年令

八月号 (二五三号)

中谷高等小学校 (二)

第十四回卒業生

授業内容 行事

郷土史クラブ情報

一〇月号 (二五四号)

金辺峠物語

中谷高等小学校 (三)

卒業後の状況

設立当時の社会状況

二月号 (二五五号)

③秋月街道 (三谷地区内

考证) (二五)

二十三卷 (平成十一年)

二月号 (二五六号)

③秋月街道 (三谷地区内

考证) (一六)

・市丸より呼野まで

・金辺峠付近

四月号 (二五七号)

③三谷の峠道考察 (一)

六月号 (二五八号)

合馬神楽

③三谷の峠道考察 (二)

八月号 (二五九号)

③三谷の峠道考察 (三)

十月号 (二六〇号)

③三谷の峠道考察 (四)

※①は合本第一巻掲載

②は合本第二巻掲載

③は合本第三巻掲載

平成十一年四月発行

非売品

三谷むかし語り

合本第三巻

発行者 むかし話をする会

代表 内山 茂

北九州市小倉南区大字石原町三四四

電話 〇九三―四五一〇三三〇

研究同人 谷端 勲 西田 士導

山本 公一 松本 洋一

前田 守次 内山 茂

印刷 若園印刷商会

北九州市小倉南区若園四丁目5-10

電話 〇九三―九六一―三〇九一

FAX 〇九三―九六一―三〇九一